

# 学校行事

旅行・集团宿泊の行事

## 平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立己斐小学校	校長氏名	竹川 智子	生徒指導主事氏名	石井 徹
-----	-----------	------	-------	----------	------

**取組事例名 『野外活動』****取組のねらい 『キーワード「責任」「協力」「奉仕』**

- 集団生活を通して、互いに思いやったり、協力し助け合ったりするなどの、よりよい人間関係を築く。
- 集団生活を通して、自主的自治的な態度を養う。

**取組の具体的内容 『キーワード チャレンジ』**

- 野外活動実行委員を設け、準備の段階から自主的に取り組ませる。
  - ・スローガンの作成
  - ・しおりの作成
  - ・班長会の企画・運営
  - ・式の司会進行、あいさつ
- 一人一人に役割を与え、責任をもって取り組ませる。
  - ・班長（班をまとめる、点呼、健康管理、連絡の伝達）
  - ・生活（持ち物の管理、掃除や風呂の点検、布団やシーツの管理）
  - ・食事（食堂の準備・片付け、水筒の管理）

**取組の課題・創意工夫 『キーワード 適切な支援』**

- 子どもに任せることを基本にしたが、それでも教師が主導になるところが多かった。
- 全てではないが、プログラムの企画段階から運営を子どもに任せ、子どもたち自身に創意工夫させながら、教師の支援が必要な折りに、支援に回ることも考えられた。

**取組の成果（効果） 『キーワード 自己肯定感』**

- 子どもたちが自主的に意欲をもって活動することができた。
- 子どもたちが自信をつけ、野外活動に限らず様々な場面で委員や責任者に積極的に立候補するようになった。
- 学年や学級全体に、自主的に取り組もうとする雰囲気が出てきた。

**今後の展開 『キーワード 自主・自立』**

- 様々な行事やイベントで、企画・運営にチャレンジさせ、達成感を味わわせることを通して、子どもの自己肯定感を養う。
- 全員で協力できたことを認め、お互いを助け合っていく風土を育てる。
- 最高学年としての自覚をもたせる。

**他校へのアドバイス 『キーワード 自主性を育てる』**

- 実行委員会などを取り入れて、企画・運営に関わらせることで、「自分たちがやった」という思いをもたせ、自信をつけさせる。
- 何も仕事がない児童がいないよう、一人一人が役割をもつようにする。



## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀山小学校	校長氏名	宮本 眞弥子	生徒指導主事氏名	矢村 千尋
<b>取組事例名</b>		<b>3年生『仲良し遠足を、成功させよう！』</b>			
<b>取組のねらい『キーワード 助け合い』</b>					
3年生は、発達段階として、集団を意識するようになる。この段階の年度初めで、クラス替えして関係づくりができていない状況の中、友達同士の関わりを持たせることをねらいとした。具体的には、友達の力になることができたり、もっと仲良くなることができたりする姿を目指す。					
<b>取組の具体的内容『キーワード 助け合い』</b>					
遠足で、もっと友達と仲良くできることを考え、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが仲良く遠足に行くために大切なこと</li> <li>・もっとみんなが仲良くなるために、自分ができること</li> </ul> について、お弁当の食べ方や遊び方、歩き方などを具体的に考え、話し合う。例えば、お弁当の食べ方について、最初は仲良し同士で食べるという意見が出たが、それでは仲良くならないので、クラスの全員で大きな二重の円を作り、男女混合で座るという方法を考え実行した。					
					
<b>取組の課題・創意工夫『キーワード 問題解決』</b>					
遊ぶ時間の最初は、助け合うことを意識して活動できていたが、時間が経つと自分たちだけでは助け合うことが難しくなり教員がサポートする場面もあった。助け合わずに自分本位で行動する場面が出てくるなど様々な場面を想定し、そのような場合にどう対応するかまで考えておく必要がある。助け合う力を育てるとともに問題解決能力を育てることも同時に行っていかなければならない。					
<b>取組の成果（効果）『キーワード 意識・意欲UP』</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで関わったことのなかった児童と積極的に仲良くなろうとする意識が見られたり、男女関係なく関わりを持とうとする姿が見られたりした。</li> <li>・これから1年間行う1年生との関わり活動の意欲づけになった。</li> </ul>					
					
<b>今後の展開『キーワード 助け合いを広げよう』</b>					
1・3年生の大毛寺公園・両延神社の季節ごとの探検のサポート活動へとつなげる。1年生のことを思いながら活動できるようにする。					
					
<b>他校へのアドバイス『キーワード ピア・サポート』</b>					
ピア・サポートで、「誰かのために何かできれば」という視点で活動することにより、助け合う力を育てることができる。さらに、このことが自己肯定感や自己有用感を高めることにもつながる。					

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中中央小学校	校長氏名	埜田 武浩	生徒指導主事氏名	小川 博正
<b>取組事例名 『「山・海・島」体験活動』</b>					
<b>取組のねらい『高学年としての自覚の育成』</b>					
<p>○自然の中で生活することにより、情操を養い、自然を味わい、自然を愛する心を育てる。</p> <p>○自分達で考え、計画・実践する活動を通して、自主的な態度を育てる。</p> <p>○寝食を共にする生活を通して、思いやりの大切さや望ましい集団行動の在り方を学ばせ、児童相互、児童と教師の人間的なふれあいを深める。</p>					
<b>取組の具体的内容『努力・見通し・切りかえ』</b>					
<p>○学級活動 班活動や当番活動などで仕事を分担させ、リーダーを決めて各自責任をもたせた。</p> <p>○道徳「心のレシーブ」2-(3)信頼友情、男女の協力 やる気のない友達の態度に接した時の主人公の気持ちやその後の友達のがんばりに気付き、心をひとつにしてまとまっていく様子を考えた。</p> <p>○ローボート 役割分担し、乗船―出発―漕艇―下船の段取りについて細かく打ち合わせて練習を繰り返した。</p> <p>○朝の集い、班長会、食事等 5 分前集合を徹底させた。</p>					
<b>取組の工夫『自立心と主体性』</b>					
<p>○学級活動 実行委員会を立ち上げ、実行委員を中心に活動を進めた。</p> <p>○道徳 協力して活動するためには、どんな心がけが必要かについて自分の考えをワークシートに書かせ、グループトークで交流した。</p> <p>○ローボート 1 回目の経験が生かせるよう、2 回目の活動を入れた。</p>					
<b>取組の成果（効果）『協力と感謝』</b>					
<p>○相手の気持ちになって考えられるようになり、協力してやり遂げることのよさを学ぶことができた。</p> <p>○試行錯誤しながら成功体験を重ねることで自己肯定感が持てるようになってきた。</p> <p>○支えてくれている家族の存在に感謝の気持ちを持ち、自ら進んで身の回りのことが出来るようになった。</p>					
<b>今後の展開『学びを生かす』</b>					
<p>○体験活動での経験がその場だけのものになってしまうことがあり、学校生活にうまく生かせないことがあった（日にちがたつにつれ、時間に対してルーズな面が見られるなど）。そのため、体験活動を通して成長した面と課題の面を明らかにし、それらをもとに体験活動の見直しを図る。その際「課題発見・解決学習」をイメージした内容を設定する。</p>					
<b>他校へのアドバイス『実態把握』</b>					
<p>○生活体験が乏しい児童が多く、児童の実態把握をした上で体験活動を設定する。</p>					

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸太田町立加計小学校	校長氏名	藤田 覚治	生徒指導主事氏名	林谷 哲幸
-----	-------------	------	-------	----------	-------

**取組事例名 『ファンファーレ合宿』**

**取組のねらい『キーワード：連帯感・主体性・社会性』**

家を離れての3泊4日の宿泊体験活動を通して、生活全般にわたって自立する力を育むことをねらいとした。

また、様々な体験活動において個々の役割を明確にし、事前準備をすることを通して、責任感を育てることもねらいとした。

さらに、宿泊先の方や指導に来てくださる方々と積極的にふれ合える場を設定することにより、コミュニケーション能力を向上させ、社会生活を営む上での人と関わる力を育てることもねらいとした。



**取組の具体的内容『キーワード：役割・責任』**

5・6年生全員がファンファーレ・バンドの宿泊体験活動を行った。

パートごとに6つの班に分け、大学生ボランティアの方々に教わり、パートリーダーを中心としたグループ活動のよさを取り入れながらパート練習をしたり、全体練習をしたりした。飯盒炊爨では、協力してカレーライスやサラダ作りをした。水生生物調査や川遊び等を計画の中に組み込み、様々な体験活動を行った。また、利用させていただいた施設を清掃する活動等を通して感謝の気持ちをもたせた。さらに、自己存在感をもたせる為、一人一人に役割や責任をもたせ、振り返る活動も取り入れた。



**取組の課題・創意工夫『キーワード：明確化』**

○練習を重ねることで自分たちの伸びを実感させる為、評価を細かく行った。また、最終日にコンサートを開き、保護者、地域の方へ演奏を披露するというゴールを明確にすることで意欲の向上を図った。

○しおりを工夫し、自分の役割を明確にさせるとともに、全体像を明らかにすることで主体的な行動へとつなげていった。

○自己決定する場を主体的に組み込むとともに、お互い演奏について助言し合うことを取り入れ、共感的な人間関係をより深めるようにした。



## 取組の成果（効果）『キーワード共感的人間関係の育成』

3泊4日の宿泊体験活動を通して、活動予定表を自分たちで確認しながら、次の行動は何をするのかを考えて5分前行動をすることができた。

一人一人に役割を与え、自分の役割を果たすために準備をし、責任をもって最後までやり切らせる活動をさせた。そのことを小グループや全体の場で認めていくことで、自信をもって活動することが



できた。

大学生ボランティアの方との交流を深めていく中で、自分や相手を大切にしたりした行動や自己表現ができるようになってきた。

最後に演奏会を行うという明確なゴールに向けて、一人一人が目標をもって取り組んだ。細かく評価をしていくことで、自分たちの成長を感じることができ、自己有用感につながっていた。

友達と寝食を共にする中で、お互いのよさに気づくことができた。また、お互いに声をかけ合い、助け合いながら活動していく中で、共に活動する

楽しさや成就感を味わわせることができた。

児童の日記には、「合宿を通して、一人でできるようになったことが増えたことに気づくことができた。」「合宿で協力してできたので、他の活動でも生かしていきたい。」「5年生と6年生の絆が深まった。」など、肯定的にとらえることができていた。

## 今後の展開『キーワード：褒める』

学級活動や日々の授業の中でも、自ら考え、主体的に行動する力を育てる。また、そういった場面が見られた際には、適切な評価を行う。



## 他校へのアドバイス『キーワード：保護者の理解』

保護者の理解や協力がないと宿泊体験活動を行うことは、とても難しい。保護者からは、自分だけでなく、自分も含めたみんなのために頑張る・協力する・努力する・時には我慢するということが身につけてきている・責任感が身についた等の肯定的な評価が多く見られた。

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長氏名	上野 克典	生徒指導主事氏名	正本 武士
-----	-----------	------	-------	----------	-------

## 取組事例名 『「山・海・島」体験活動』

## 取組のねらい『キーワード ～自立と自律～』

- 広島県立福山少年自然の家での野外生活を行う中で自然に親しむとともに、様々な体験を通して、主体性や計画性を身に付ける。
- 共同生活を通して、集団の規律・協力の大切さを知り、仲間意識を高める。
- 様々な体験をすることによって、小学校生活の楽しい思い出づくりをする。

## 取組の具体的内容『キーワード ～夢キラ7（セブン）～』

## ★個人として

- 1 自分で考え、判断し、行動できる主体性を身に付けよう！
- 2 見通しを持って行動できる計画性を身に付けよう！
- 3 最後までやり切る忍耐力や行動力を身に付けよう！

## ★集団の一人として

- 4 集団活動でのルールを守る力を身に付けよう！
- 5 集団で活動する協力する力を身に付けよう！
- 6 友達の良さを見つける力を身に付けよう！
- 7 あらゆる「人・もの・こと」に感謝する心を身に付けよう！そして、感謝の気持ちを表現できる力を身に付けよう！

## 取組の課題・創意工夫『キーワード ～主体性と協調性、そして感謝する心～』

- ・個人及び集団の目標を児童と共に話し合い、夢キラ7（セブン）として設定した。
- ・「リーダー、サブリーダー、食事、広報・衛生、アクティビティ」の5つの係を設定し、どの係に属するのかを自分たちで選択させ、児童の意欲を高めた。また、選択した係ごとに分かれての事前指導を行った。（自分の係以外の仕事が他の人には分からない状態にし、自分の係に責任を持つように仕向けた）その後、班編制を行うことで、各自の役割が明確となり、自覚と責任を持って活動できるように仕組んだ。
- ・星空観察の時間を設け、普段は味わえないシチュエーションの中で仲間と活動をする取組を行った。
- ・SAF（サーフ）プログラムを取り入れ、①自ら考え、物事に進んで取り組む力、②自分の考えを伝え、他者の意見を受け止めながら意思疎通を図る力、③困難だと思ふ課題に対して果敢に挑戦する力、④自他の考え方の違いを認め、仲間と力を合わせ取り組む力の育成を図った。
- ・事前に家族の方に内緒で手紙を書いて頂き、それを読む場を設けた。離れているからこそ分かる家族のありがたさに気付かせ、手紙を返す活動を取り入れた。

### 取組の成果（効果）『キーワード ～振り返りで成長に気付かせる～』

- 野外炊さんを2回実施したことで、児童は見通しを持つことができ、児童の主体性や計画性、協調性など、多くの力が養えた。児童間の絆が深まったと思われる。振り返りの時にも児童は2回目の野外炊さんでは主体的に動くことができたという記述が多かった。
- 星空観察の時間を設け、普段は味わえないシチュエーションの中で活動をしたことで、仲間同士のつながりができ、自然の素晴らしさを共有することができた。
- 「家族からの手紙」を読ませたことで、改めて家族の大切さ、尊さに気付くことができた。また、今ある自分は当たり前で生きていくのではなく、多くの人に支えられて生きていくことにも気付くことができ、あらゆることに対して感謝の気持ちを表す児童が増えた。
- 振り返りの時間を充実させたことにより、翌日にめあてを持って意欲的に活動に取り組むことができた。また、自分自身の成長も振り返ることができた。

### 今後の展開『キーワード ～見通しと準備～』

- 児童を主体的に動かすには、児童がしっかりと見通しを持つことができなくてはならない。そのためには教師側の準備を早くし、児童への事前指導をしっかりと行っておかなくてはならない。スケジュール表を元に、なるべく児童が考えて行動し、教師は口をはさまなくて良いようにしていく必要がある。

### 他校へのアドバイス『キーワード ～打ち合わせを入念に～』

- 学校側の思いと施設の方の思いが違う場面があり、少し困惑したことがあった。入念に打ち合わせを行い、つけたい力を明確にした上で学校側の思いを伝え、話し合っていく必要がある。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次小学校	校長氏名	名越 達朗	生徒指導主事氏名	末丸 千早
-----	-----------	------	-------	----------	-------

**取組事例名 『野外活動』**

**取組のねらい『キーワード 自主・協力・感謝』**

- ・ 集団行動を通して、集団の一員としての自主・協力の態度を育てる。
- ・ 寝食を共にすることにより、お互いの心のつながりを深め、助け合いを通して感謝の感情を育む。

**取組の具体的内容『キーワード 生徒指導の三機能』**

○グループ活動

- ・ オリエンテーション (自己決定)
- ・ 沢登り (自己存在感) (共感的人間関係)
- ・ 夕食準備 夕食 片付け (自己存在感) (共感的人間関係)
- ・ キャンプファイヤー (自己存在感) (共感的人間関係)
- ・ カヌー体験 (自己存在感) (共感的人間関係)



沢登りのスタート



急な岩場も登ります。



滝壺がゴール



作業分担して夕食づくり



カレーとサラダの完成



キャンプファイヤーのスタンツ



カヌーに乗る前の準備・練習が大切



ドキドキのチャレンジ



あっという間に上達

## 取組の課題・創意工夫『キーワード 体験活動による自己指導能力の育成』

- 事前指導…グループの目標を設定し、一人一人が目標を自覚しながら、自ら働きかける意欲づくり  
道徳の時間「遠足の子ども達 1ー③」  
学級会 「グループ・ワーク・トレーニング」  
学級会 目標設定・役割分担・スタンス準備
- 自主的・自発的な体験活動（夕食作り・キャンプファイヤースタンス）  
児童自らが計画を立てて役割分担をし、お互いを尊重し合う中で信頼関係を高め、人間関係を深めることができる活動内容を仕組む。
- アドベンチャー体験活動（沢登り・カヌー）  
冒険的要素を備えた活動を取り入れ、挑戦の意欲や連帯感の中での達成感を高める。

## 取組の成果（効果）『キーワード 豊かな人間関係と自己指導能力』

- 事前指導  
野外活動の間、常に目標を意識させ、自己評価・グループでの評価をしながら取り組ませることができた。自分たちで決めた目標を達成させることによって（自己決定）、目標達成の喜びを味わわせることができた。
- 自主的・自発的な体験活動
  - ・一人一人が役割を分担し協力して取り組むことによって、「自己存在感」を感じることができた。
  - ・協力しながら目標を達成していく活動を繰り返すことにより、集団の一員として活動する楽しさを味わい、児童相互の「共感的人間関係」が育った。
- アドベンチャー体験活動
  - ・冒険的な活動を取り入れ、協力して目標を成し遂げることによって、他者を認める思いやりの心を持つことができた。

## 今後の展開『キーワード つながり、広がり、校風へ』

- 総合的な学習の時間「保育所交流」・・・グループでの保育所での活動の企画・実践へつなげていく。
- 「鼓笛」・・・本校の伝統となっている鼓笛を引き継ぎ、5年生の協力でメロディーを作り上げることによって、伝統を受け継いでいく。



運動会の鼓笛



交通安全パレード

## 他校へのアドバイス『キーワード 待つ姿勢』

- 児童の自己指導能力を育成するためには、指導者の「待つ」という姿勢が重要

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立温品中学校	校長氏名	内田 智久	生徒指導主事氏名	土師 正伸
-----	-----------	------	-------	----------	-------

## 取組事例名

## 『生徒指導の三機能を生かした修学旅行の取組』

## 取組のねらい『キーワード 「自律心と社会性」』

自然とのふれあいや集団活動を通して、集団の一員としての自覚を持ち、仲間と協力し、責任ある行動ができるよう、規律やマナー・礼儀の基本を学び、人間形成の場のひとつとして実施する。

## 取組の具体的内容『キーワード 「自主性と集団行動」』

## &lt;事前&gt;

- 1 保護者説明会で、夏季休業中に家庭での仕事や寝等のお願としてリストを配付し、保護者と連携してマナーの向上に取り組む。
- 2 実行委員会で、必要な取組の内容を考え、自ら立案し、各集会活動や各点検活動、各クラスでの取組を実行委員が運営する。
- 3 自分の現在の課題を考え、どう取り組んでいくかを各クラスで交流する。
- 4 自己診断カードで、夏休み中の取組の評価をし、これからの課題は何かを考える。
- 5 実行委員会で、できていることと課題を持ち寄り、今後の取組を検討する。
- 6 実行委員が、集会で成果と課題を発表し、今後の課題克服のための取組を呼びかける。
- 7 実行委員会で、修学旅行前1週間の取組について、各民泊グループで評価する。



## &lt;事後&gt;

- 1 民泊体験でできたこと、できなかったことを考え、グループで交流する。
  - ・ 成功体験を元に、自己肯定感、自己決定力を高めるとともに、反省点を考えさせることによって、課題発見の力をもつけさせる。
- 2 民泊家庭へのお礼の手紙とパンフレットを作成する。
  - ・ 自分の言葉で感謝の気持ちを伝えられるよう、グループで意見交流させ、共感的人間関係の育成を図る。



## 取組の課題・創意工夫『キーワード 「自立と協働」 』

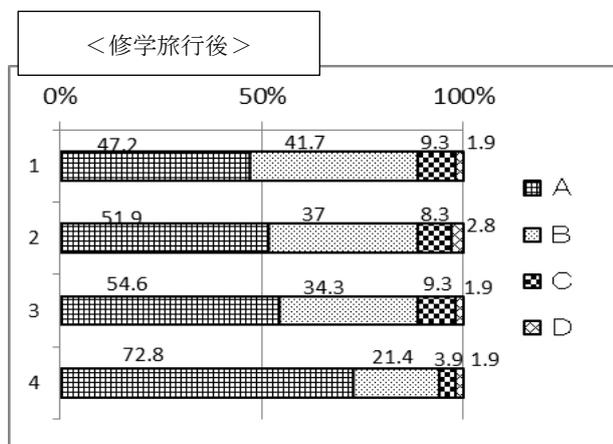
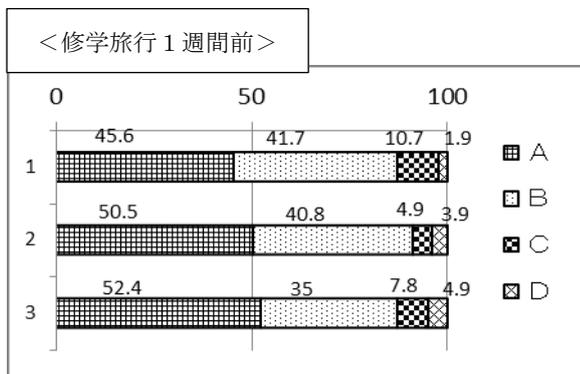
- 1 できるだけ実行委員に任せ、取組前に教員は口を出さないようにする。
- 2 実行委員から出てきた案を、教員と共に検討する。
- 3 実行委員が取組の企画・運営をすることで、生徒自らが行事を進めていくという自主性と協働意識を持たせる。
- 4 自己評価で「できたこと」を評価し、グループで課題を見つけさせ、新たな取組を考えさせる。

## 取組の成果（効果）『キーワード 「自己肯定感の向上」』

- ・ 民泊家庭での生活で、コミュニケーションの大切さを学び、積極的に仕事に関わり褒められたことで、自己肯定感や自己決定力を高める生徒が出てきており、そのような生徒が学年のリーダー的な存在となりつつある。
- ・ 自ら仕事をしたことが、各民泊家庭で評価されたことにより、「向上心」を持つようになった生徒が多くなった。
- ・ 授業をしっかりと受けよう、学校生活をしっかりと送ろうという意識が見られ、生徒同士の声かけや集団行動時の自制心や規律を守ろうという姿勢が見られるようになった。

質問1 ルールを意識して活動できた  
 質問2 グループでは積極的に活動できた  
 質問3 自分の役割を自覚して活動できた  
 質問4 修学旅行を通して（取組も含む）、自分は成長できたと思う

A：とてもあてはまる  
 B：だいたいあてはまる  
 C：あまりあてはまらない  
 D：ぜんぜんあてはまらない



## 今後の展開『キーワード 「協同学習」』

- ・ 修学旅行の取組を生かし、生徒自らが学習に取り組む姿勢を養う。
- ・ コミュニケーション能力と積極的な学習への姿勢を育成するために、各教科で協同学習を取り入れる。

## 他校へのアドバイス『キーワード 「教員-生徒の協働」』

- ・ 生徒に立案、運営をさせるには時間がかかることですが、1年時から「将来のリーダー育成」を考え、様々な行事で発案させる習慣をつけさせておくことが大切です。「1年生だからまだできない」ではなく、子どもの自由な発想を促し、その中でルール等の規範意識を身につけさせることが大切です。
- ・ 生徒が何かの取組をする際には、初めからルールのことを細々と話したり、強く制約をかけないこと。生徒は、やっていいのかわからず、教員に聞きに来ますが、このとき、「これはダメ、あれはダメ」と禁止するのではなく、まずは「企画させてみて、一緒に考える」という手順をとると、生徒は自然とルールを覚えていきます。
- ・ 生徒が考えて持ってきたものを、生徒と一緒に考え、「できること」と「できないこと」をしっかりと教えていきます。そうすることによって、様々なルールの中で生徒が自ら考え、計画していく力がつきます。
- ・ 生徒の自由な発想の中から、それが一つでも認められれば、生徒に「やる気」が生まれ、その後も自ら考えようという習慣がついていきます。
- ・ 要は、「認めること」「認められること」が自己存在感、自己肯定感に繋がっていき、将来のリーダーとしての資質を身につけるようになります。

学校名	広島市立己斐中学校	校長氏名	藤岡 博幸	生徒指導主事氏名	上田 岳
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名	『野外活動（1年生）』
-------	-------------

取組のねらい	『キーワード 集団・自然との関わり』
--------	--------------------

- ・野外活動での関わり合いのある体験を通して、生徒相互の友情や信頼感を育てるとともに、集団意識を高め、探求活動に主体的・創造的に取り組む力を育てる。
- ・野外での生活を通して、自然とふれあい、自然の恵みや自然との関わりを学び、主体的な行動力や自主性を養う。

取組の具体的内容	『キーワード ルール・責任・協力』
----------	-------------------

【カッター研修】



【野外炊飯】



【キャンプファイヤー】



- ・他に、カプラ研修やウォークラリー、学級レクなど、集団での活動を通して生徒の主体性や自治を育む取組を実施している。

取組の課題・創意工夫	『キーワード 生徒主体の活動』
------------	-----------------

【課題】

- ・取組の日程調整等、もう少しゆとりがあればなお良かった。

【創意工夫】

- ・事前の取組から、代議員を中心とした生徒主体の活動を行うとともに、係活動や仕事分担を明確にすることで、全員が責任を果たせるような活動になるように心がけた。
- ・代議員や係活動の代表からの意見やメッセージ、事前事後の取組等を学年通信を活用して、学年全体で共有できるようにした。また、学年通信を通じて保護者にも取組の様子等が伝わるようにした。

【結団式の様子】



【解団式の様子（表彰）】



**【代議員から】～事前の決意・意気込み～（学年通信掲載）**

私は、野外活動という3日間がとても大変で忙しい日々になると思いますが、それ以上に自分、一人一人の成長を感じることでできる3日間にできたらなと思います。そして、野外活動という行事を機会に、新しい仲間との交流を深め、いつも以上にお互いを知り、また、みんなとの協力・団結を通して、前の自分と向き合って新しい自分を見つけることでできる3日間にもしていきたいです。だから私は自分もみんなも、いつか野外活動を思い出した時に”成長したな”と思えるように、自分のできることは自分から進んでやり、困っている人にはアドバイスをし、自分の役割を最後までやりとげます。

**取組の成果（効果） 『キーワード プラスの声かけ・前向きな姿勢』**

- ・代議員や班長を中心にして、授業等でもよい声かけができるようになった。
- ・普段の学校生活でも、ルールを守ることや仲間と協力することの大切さを意識して生活していると感じられることが多くなった。

**【生徒感想文】～野外活動を終えて～**

野外活動で学んだ協力を、これからの生活に生かしていきたいと思いました。野外活動が終わったから終わるのでなく、それを生かしていくことが必要だと思います。自分のことだけではなく、周りの人のことも考えられるようになっていこうと思いました。学校生活でも時間を守ることが大切だし、普段の生活でもルールを守っていくことが大切だと思います。自分が次に何をするのかを考えて行動し、友達と協力していくことが大切だと思います。班行動などの時には一緒にやることが必要だと思います。友達とやれば最後まで出来ると思うからです。責任では、自分に与えられた仕事を最後までやることが責任を果たすことになると思うので、あきらめず最後までやってみようという心を持つとうと思いました。カプラ研修の時には、みんなで一つのものを作ろうと思う気持ちが感じられました。失敗しても「がんばろう」と思ってみんなとやっていけば何でも出来るんだなと思いました。

**今後の展開 『キーワード 伝統の継承』**

- ・生徒自身が自ら考え、判断し、行動できるような、生徒の主体的な取り組みを推進する。
- ・教職員の共通理解を深め、保護者や地域との連携を図り、ルールの徹底や仲間との協力・団結を普段の学校生活や行事でも活用できるような指導を心がける。

**他校へのアドバイス 『キーワード 継続』**

- ・野外活動のみの指導に留まらず、普段の学校生活と関連して事前の指導及び、事後の継続指導をすることが生徒指導の充実に有効な手立てであると思います。

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	校長氏名	夜船 正充	生徒指導主事氏名	石田 達生
<b>取組事例名 『平成 27 年度 修学旅行』</b>					
<b>取組のねらい『集団行動と異文化交流』</b>					
平成 27 年度 10 月 14 日より 10 月 17 日までの 4 日間、本校 2 年次生は台湾への修学旅行を実施した。この特別活動を通して、学校外における集団行動と異文化交流に取り組み、社会的マナー及びモラルの定着、並びに自己肯定感・他者尊重の態度の養成を図った。					
<b>取組の具体的内容『姉妹校との学校交流、班別自主研修』</b>					
修学旅行では、2 日目に本校と姉妹校提携を結んでいる新北市立石碇高級中学との学校交流を、3 日目に現地の大学生によるボランティアガイドとともに台北市内をめぐる班別自主研修を設定した。 学校交流では 4 つのグループ（スポーツ交流、現代文化交流、伝統文化交流、伝統遊び交流）に分かれ、それぞれが準備してきた歌・ダンス等を披露・鑑賞したり、けん玉・中国ゴマの技を教えあった。 班別自主研修では、ガイドの力を借りながら事前学習で計画したルートをめぐり、初めて見る文化や歴史に触れる充実した体験活動を行った。					
<b>取組の課題・創意工夫『丁寧な事前学習』</b>					
本取組における工夫の一つは、事前学習に力を注いだことである。多くの生徒がこれまで訪れた経験がない台湾について、出発直前の授業まで丁寧に調べ学習に取り組んだ。インターネットや図書を活用して台湾の文化・歴史・風土について学び、実際に台湾を訪れた時にどのような自主研修を行うかを計画した。また、空港（国際線）の利用や台湾の公共交通機関利用時のルール、集団行動時に一般の方と同席した際のマナーやモラルについても丁寧に指導した。さらに学校交流での出し物についてグループ毎に計画・練習し、お互いに協力して一つの目的を達成しようとする意識を養った。					
<b>取組の成果（効果）『自己肯定感・自律』</b>					
学校交流は 4 つのグループいずれもが事前学習のかいあって非常に充実したものとなった。 文化交流のグループでは J - POP に合わせてダンスを披露し、台湾の生徒たちから大変な好評を得た。日本で普段生活する中では気付けない日本文化の価値について気付くとともに自分たちが他者に認められるという感覚は、自己肯定感を育む大きなきっかけとなった。 班別自主研修では自分の生活圏とは異なる空間において、社会的マナーやモラルを守ることで他者に迷惑をかけることなく、共存していくことの重要性に気付くようになった。学校という比較的狭い空間から社会生活、特に台湾という国際的な都市の中で行動することは生徒にとって重要な機会となった。					
<b>今後の展開『丁寧な振り返り』</b>					
今後は 1 月末に行われる総合学科学習成果発表会に向けて、修学旅行で学んだことを整理し、まとめる学習活動を進めていく。現地での自他の活動や発見を丁寧に振り返ることでさらなる成長へとつなげていく。また、今年度は 12 月に石碇高級中学からの訪問があり、その歓迎準備や歓迎式典で「おもてなし」の心を学ぶ機会も得ることができた。					
<b>他校へのアドバイス『緊張感のある出会いと経験』</b>					
普段の生活では出会うことができない人・モノに触れることが本校の生徒たちの成長に大きな影響を与えた。新しい出会いや経験がよい緊張感を生み、他者への配慮や行動の自己管理といった社会的資質を高めることができた。日常の活動の中でも同じような取組ができれば良いのではないだろうか。					



学校交流の様子 (左上：あやとりを教える松高生と石碇高級中の生徒)  
 (右上：友好の証としてメッセージを書いたけん玉)  
 (左下：両校の生徒が混合でチームを作り、対戦したバレーボールの試合)  
 (右下：学校交流を通して育んだ絆・友情を記念写真に)



班別自主研修の様子 (左：台北市内を事前学習で計画したルートでめぐる自主研修)  
 (右：自主研修をサポートしてくれる台湾の学生ボランティアガイドの方に自己紹介)